



あおばイコット通信

～No.55～



平成 27 年 3 月号
 <編集・発行>
 青葉区明るい選挙推進協議会
 <事務局>
 青葉区総務課統計選挙係
 TEL: 978-2205
 FAX: 978-2410



～明るい選挙リーダー研修会を実施～

平成26年10月1日に横浜市全体の明るい選挙リーダー研修会が実施されました。これは講演会などを通して、明推協の活動に対する推進員の興味を高め、選挙啓発への意識を高めることを目的として実施するものです。青葉区明推協からも参加しています。

～平成 26 年度区民まつりに、明推協が 恒例の屋台出店と選挙啓発を実施～



平成 26 年 11 月 3 日の区民まつりの日、青葉区明るい選挙推進協議会は恒例の選挙クイズとフランクフルトの販売で出店しました。大勢の区民の皆様にご利用頂き、フランクフルトは完売。焼き係は軍手をしていても高温の油でいつの間にか火傷。名誉の負傷でしたが、選挙啓発に少しは

お役に立てたかと慰めて満足した次第です。

当日はマスコットのえら坊君も参加し、大盛況となりました。



～区民マラソン大会でシューズ ケース を使った選挙啓発～

青葉区明るい選挙推進協議会は、区制 20 周年を記念して昨年 11 月 30 日に開催された青葉区民マラソン大会に協賛者として参加しました。マラソンにちなんだ選挙啓発物品として選定した結果が「シューズケース」。マラソン大会で使われたシューズケースが選挙の長い道のりを走り抜ける縁起物になるかもしれません。



～ 第 47 回衆議院議員議員総選挙に伴う 街頭啓発「ザ・イコット」～

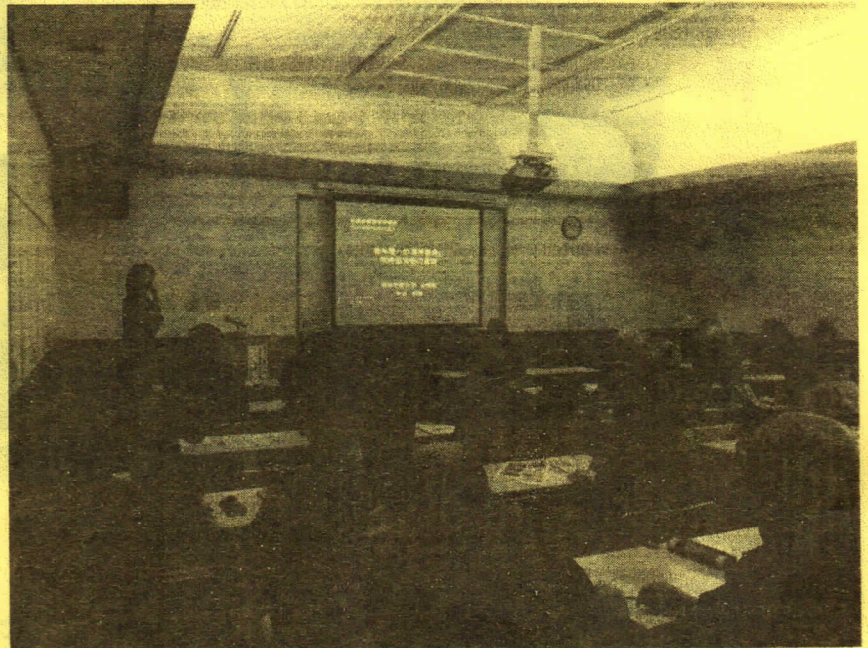


第 47 回衆議院議員総選挙投票日（平成 26 年 12 月 14 日）1 週間前の週末に、青葉区内ではあざみ野駅（12 月 6 日）と青葉台駅（12 月 7 日）で街頭啓発活動「ザ・イコット」を実施しました。プラカードやのぼり旗を掲げ、ティシュペーパーを駅利用者にお配りし、忘れずに選挙に行って貴重な一票を投票するよう呼びかけました。

～青葉区明推協推進委員・推進員研修会～

明推協では、毎年推進委員・推進員に向けた研修会を実施しており、今年度は平成26年12月17日、青葉公会堂で実施しました。明治学院大学の中谷美穂先生（政治学）をお招きし、「若年層への選挙啓発と明推協活動の意義」というテーマで講演をしていただきました。

有権者は、自分の利益を最大化するように行動する、という前提による「合理的選択理論」や「投票参加の公式」などの解説、若年層は社会に対する影響力の認識の低さ・自分の決定で何かが決まったり生み出したりという経験の少なさがある・特定の支持候補者がなく候補者や政党間の違いを十分認識し得て



いない・社会との接点が少ないことによる投票義務感・参加義務感が低い、などの傾向分析をしていただきました。

若者と社会をつなぐこと、政治に主体的に参加できるようにするための取組みの必要性を認識することが出来ました。

今年もやりましたデザート選挙 ～せんきょフォーラムを実施～

青葉区明るい選挙推進協議会は、毎年区内の小学校でせんきょフォーラム（別名デザート選挙）を実施しています。

せんきょフォーラムは小学校の卒業式を控えた6年生を対象に明推協が毎年実施する、選挙の重要性と投票の仕組みについて模擬選挙を通して体験的に理解してもらう特別授業です。6年生は卒業前の給食のデザートメニューを自分達の投票によって決定します。

投票用紙（ポリプロピレン材質）や投票箱等の器材は、実際に使われるものと同じで、折り曲げた投票用紙が自然に開く様子や票数を集計する機材実演を、児童のみなさんは大変興味を持って見学・学習しました。

今年度は3つの小学校で実施しました。

(1) 横浜市立市ケ尾小学校

(1月22日(木))

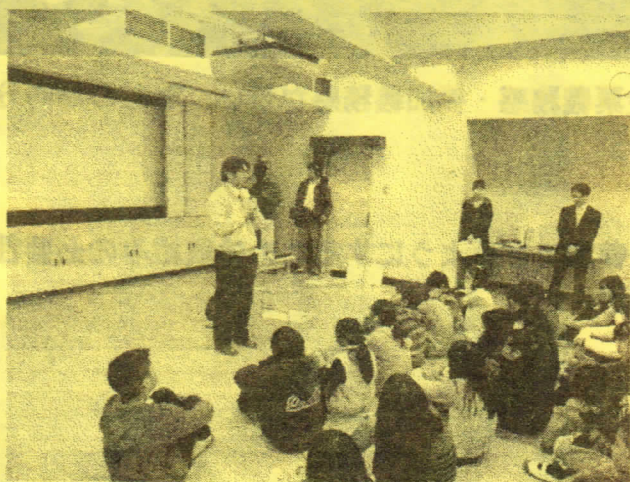
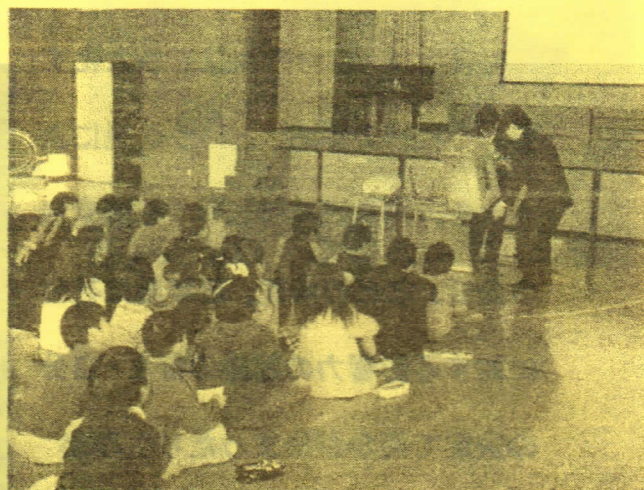
(2) 横浜市立嶺山小学校

(1月23日(金))



(3) 横浜市立鴨志田緑小学校

(1月26日(月))



※ 全国組織の「明るい選挙推進協会」から、小学生を対象とした選挙教育の様子を取材（撮影）したいという申し入れがあり、鴨志田緑小学校との調整を進めてきました。当日は、児童のみなさんへのインタビューも含めて、無事に撮影を実施出来ました。ご協力をいただき、ありがとうございました。

編集後記

➤ 平成26年は、青葉区20周年を記念する1年でした。選挙権も20歳からということで、明推協としてもぜひお祝いしたいと考えてきました。毎年恒例となっている区民まつりに加えて区民マラソンにもかかわることが出来、充実した年になりました。

➤ 明推協での啓発活動は、選挙時・通常時の2種類に大きく分けられますが、どちらも重要であると考えています。一人ひとりが日ごろから社会との接点を持ち、政治に関心を持ち続けていくよう、働きかけを続けていきます。